

## 北口寛人市長に対する問責決議

平成15年5月に北口市政が誕生してから2期8年になろうとしている。

就任以降、二つの事故への対応、安全文化の確立、市民起点の市政運営を掲げ、市政の発展に取り組んでこられたが、一方では、平成18年12月定例会市議会における退職金発言で市政に混乱を与えたことは記憶に新しい。

そして、このたびの平成22年12月定例会市議会の本会議の場において、明石淡路フェリー(通称たこフェリー)への支援について、これまでの市議会での答弁が、公文書とまったく異なった発言であったことが明らかとなった。

議会での発言は、非常に重いものであり、その発言には責任を持たなければならない。

市長という立場と権限は、法を遵守することはもとより、高い政治倫理を保持していることを前提に市民から負託されたものであり、議会でこのような発言をしたことは、市議会という場において、市民への説明責任を果たすという認識を著しく欠いたものである。

よって本市議会は、北口市長に対し、猛省を促すとともに、市長としての責任を強く問うものである。

以上、決議する。

平成22年12月17日

兵庫県明石市議会